

兵庫県保険医協会北阪神支部

—新春政策研究会のご案内—

マイナンバー制度の問題点と これからを考える(仮)

講師 ^{さかもと}坂本 ^{まどか}団 弁護士
(日本弁護士連合会情報問題対策委員会委員長)

日時 2016年1月16日(土) 16:00 ~ 18:00

会場 宝塚商工会議所第1・2会議室(宝塚市栄町2丁目1番2号 ソリオ2・6階 TEL:0797-83-2211)

※終了後、懇親会(於・がんこ宝塚苑 参加費:5000円+お飲み物代)

「通知カード」の送付が開始され、いよいよマイナンバー制度の実施が迫りました。医療機関でも税申告や職員の雇用実務のため個人番号の取得、使用が求められており、個人情報取り扱いなど、大きな負担をもたらす制度です。さらに、制度実施前にもかかわらず、すでに利用範囲拡大について法改正が審議されています。この制度の問題点と今後、医療や社会保障、また徴税にどう使われようとしているのか、日弁連の情報問題委員長を務める坂本団弁護士をお招きし、お話しいただきます。ぜひご参加ください。



・阪急宝塚駅直結、ソリオ2の6階です
・お車の方は、ソリオ1地下駐車場、阪急宝塚駅屋上駐車場等、近隣駐車場をご利用
※お問い合わせは、北阪神支部担当事務局 (Tel 078-393-1807) 小西・小川・横山まで

<講師略歴>
1991年京都大学法学部卒業。1993年弁護士登録。大阪弁護士会所属。現在、大川・松枝・坂本法律事務所にて活動。日本弁護士連合会情報問題対策委員会委員長。大阪大学法科大学院非常勤講師。

(切り取らずに返信ください)【FAX返信】078-393-

■北阪神支部・新春政策研究会に () 名出席します
懇親会に () 名出席します

※人数をお知らせください

地区 _____
お名前 _____ 医療機関名 _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2015年 11月25日号 No.253
発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802
<http://www.hhk.jp/>

第88回評議員会 谷口評議員 発言要旨

社会保障の充実、 真の国民の幸せを考えた政治を



協会は11月15日に第88回評議員会・臨時決算総会・第38回共済制度委員会を開催。評議員ら105人が参加し、前半期会務報告と後半期の重点課題を承認した。北阪神支部からは、谷口紀善評議員が政府の進める患者負担増政策などについて発言した。

TPPに参入することで、自由診療の領域が拡大され、国民の幸福を願う、世界的にも類を見ないすぐれた国民皆保険制度が、いまや崩壊しようとしている。

安倍政権は社会保障の充実を打ち出されたが、実際にはすでに介護報酬は削減され、診療報酬は小泉政権を上回る3900億円以上の削減が打ち出され、昨年からの消費増税も社会保障にはほとんど使われていない。これでは十分な医療はできない。すなわち、患者の窓口負担は増え受診抑制につながり、諸々の税金なども多くなり、物価高などで国民の生活は決して楽ではなく、大企業と富裕層だけがうらやまを公言されているが、介護士の給料は安く、中小企業の介護施設は倒産しているのが現状である。

2千億円以上もかけて来年1月から導入されるマイナンバー制度だが、国民の60%が十分理解していない。国民の預貯金や財産などを全てチェックし、税金を取ろうとしているが、これにまつわる厚労省の役人の汚職など、無駄遣いが多々ある。国の借金は1100兆円となり、年収は50兆円しかないのに、98兆円の国家予算を組み、来年は防衛費なども増え、100兆円以上になると考えられる。さらには、毎年300億円以上の政党助成金について、共産党以外は全て受け取り、辞退した共産党の助成金を国庫に返すどころか、その助成金を分けているとか。開いた口がふさがらない。この苦しいときに助成金など全くなしにすべきだ。真に国民の幸せを考えた政治が行われているのか、疑問と憤りを感じる。

宝塚社保協第11回定期総会

憲法25条の理念の実現求めよう



二宮元・流通科学大学准教授(左上)が安倍政権が進める社会保障削減の政策について解説した

北阪神支部が宝塚市内の医療団体や保育団体などをつくる、社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)は9月8日、第11回総会を宝塚市立西公民館で開催し、参加団体から35人が参加。前年度の報告と新年度方針・予算・次期役員体制を

確認した。協会北阪神支部の中井通治支部長と脇野耕一副支部長が副会長として、再任された。

中井支部長は、「宝塚市の社会保障制度を改善するために、県社保協や近隣の社保協と連携し、自治体キャラバン(自治体担当者との懇談)をすすめます」などとする総会決議案を提案し、拍手で承認された。脇野副支部長が、閉会あいさつを行った。

学習講演として、流通科学大学総合政策学部の二宮元准教授が「どうなる社会保障～戦争する国づくりが進む中で～」と題して講演した。二宮氏は、憲法25条の生存権に象徴される戦後日本の福祉国家を破壊しようとするのが安倍政権であるとした。そして、「自助・共助」を強調し、社会保障における公的責任を後退させ、社会保障の理念を変質させようとしていると指摘。公的保険を「負担の見返りとして給付を受け取る」という保険化することで、国民に自己負担の引き上げか、給付の削減かを迫っているとした。

この流れに対抗するには、憲法25条の生存権の理念などを実現していくことが大切であるとし、具体的には①必要充足(人間らしい生活のために必要なものを無条件で充たす)、②応能負担(必要な財源は能力に応じて負担する)の二つの原則に基づき、社会保障制度の実現を求めていかなければならないと締めくくった。



(上)決議案を提案する中井支部長、(下)閉会あいさつする脇野副支部長

伊丹社保協第6回定期総会

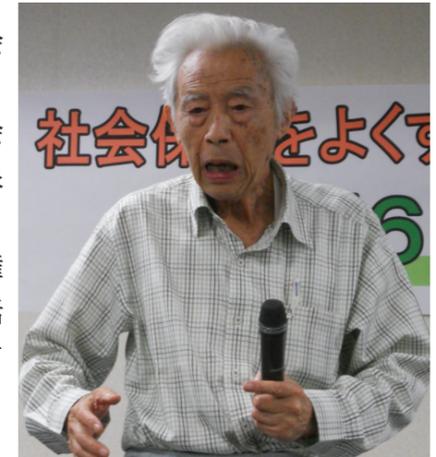
病床削減進める「地域医療構想」

北阪神支部が事務局団体として加盟する社会保障をよくする伊丹の会(伊丹社保協)は10月10日、伊丹市立スワンホールで第6回定期総会を開催。加盟団体、市民ら23人が参加し、小泉勇北阪神支部幹事が会長に再選された。

開会あいさつにたった小泉幹事は「安倍政権下で社会保障はますます改悪され、国民の生活は崩壊の危機に瀕している。社会保障を守っていく運動を継続していかなければならない」と呼びかけた。

記念講演では、「どうなる!?身近な医療・介護と社会保障」をテーマとし、保険医協会事務局の平田雄大氏が、「社会保障・税の一体改革」として進められている社会保障改悪政策を解説。

2025年の医療需要と病床の必要量を推計する地域医療構想で、全国で20万床、兵庫県で最大2600床の病床削減が計画されていると説明。また、入院給食費の自己負担の引き上げなど、次々と打ち出される患者負担増計画を分かりやすく説明した。



小泉幹事が伊丹社保協会長として開会あいさつした



幹事会だより

第339回 11月5日(木)宝塚商工会議所特別会議室B 参加 6人

◆北阪神支部の会員数と組織率

11/4現在 医科326人(71%)、歯科178人(55%)

◆情勢と医療運動対策

①厚労省で開始された2016年度診療報酬改定についての議論、②介護業者の倒産が過去最悪となっている現状、③県と県看護協会が宝塚市内に設置した県ナースセンター宝塚支所等について、意見交換した。

◆当面の支部活動

- ・2016年1月16日(土)新春政策研究会「マイナンバー」坂本団弁護士(4面に案内)
- ・2016年2月11日(祝・木)レクリエーション企画「チキンラーメン手作り体験」(近日案内予定)

お問い合わせはTEL 078-393-1807 小西・横山・小川まで